

本阿彌光悦卯月は如何なもの着しや

藤田湘子

『藤田湘子全句集』を開けば、平成六年、六十八歳の湘子の和服姿の写真がある。自宅和室で、秋櫻子、波郷染筆の湯呑茶碗を両手に持ち、どこか誇らしげである。

俳人なら誰でも自宅では和服なのではなからうかと初学の頃、飯島晴子さんに伺ったが、晴子さんは洋服派であつた。湘子先生も、毎月の鷹句会や記念句会でも洋服姿で、自宅以外では和服を召されていなかつたようだ。

卯月は、旧暦四月。立夏も過ぎ卯の花の咲く頃。上五ならぬ「本阿彌光悦」と、上八で堂々と押出してくる力技には敬服。なお、尾形光琳の忌日を詠んだ三句と光悦忌の二句も収録されている。俵屋宗達との合作『鶴図下絵和歌巻』の意匠や書はお好みであつたに違いない。

1989年(三作)第九句集『前夜』 鑑賞・轍郁摩